

令和6年度 学校自己評価書

鈴鹿市立白子小学校					
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)	評価指標・行動指標	成果○と課題●	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1 授業改善 ・全教員による授業公開(指導主事を招聘年4回) ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を位置付けた授業スタイルの確立 ・学びに向かえる学習環境、学習規律の確立 ・児童の興味・関心・意欲を大切にして、考えを深め、表現し、適切に評価する授業	・研究授業を行う教員:100% ・学力調査(学期末テスト)/みえスタディ・チェック:全国平均・県平均以上 ・児童アンケート「授業はわかりやすいですか」:90%以上	○研究授業を行う教員:100%達成。 ●学力調査:全国比 国語△3.7 算数△8.4 全国平均を下回った。しかし、次の通り、 学校の授業改善は進んでいる 。 「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところを分るまで教えてくれる:92.9%(全国比+5.0P)」「国語の授業の内容はよく分かる:91.2%(全国比+4.9P)」「算数の授業の内容はよく分かる:87.7%(全国比+5.6P)」 ○みえスタディ・チェック 4年国語+12.1 算数+10.7 5年国語+19.6 算数+8.3 理科+12.9 県平均を大きく上回った。 ○児童アンケート「授業はわかりやすいですか」94%(昨年比+2%)	・先生方の努力があり、授業が分かりやすいとのアンケート結果につながったのだと思う。 ・みえスタの結果向上は授業の成果が出ている。先生たちの日々のご指導のお陰である。引き続き、学力調査も全国平均を上回るようにお願いしたい。 ・学習プリントは低学年のうちから習慣づいて高学年まで続けられる工夫があると良い。 ・一足とびで良い結果が得るものではなく継続により結果が得るため、引き続き取り組んでほしい。	・学調や三重スタは引き続き事前の対策に取り組んでい。 ・全ての教員が研究授業を行い、授業を公開することにより、授業力を向上させることにつながるため、今後も継続する。
	2 基礎学力の向上 ・少人数指導(習熟度・TT)によるきめ細かな指導 ・学習プリント学期毎1人50枚以上 ・「よむYOMUワークシート」「読む・書くワークシート」を活用した読解力、論理的思考力の育成	・算数科少人数指導実施学年(1.5.6年生)の算数単元テスト:全国平均以上 ・学習プリント50枚達成児童:90%以上 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケートを学期末1回(二部会で連携) ・「よむYOMUワークシート」「読む・書くワークシート」は週1回実施	○算数科少人数指導実施学年(1.5.6年生)では、児童の学習の成果を確認しながら取り組んでいる。 児童アンケートの「授業はわかりやすいですか」では、 94%が肯定的な回答だった 。 ○学習プリントは、1～3年生は86%、4～6年生は75%。高学年は昨年度より達成率が上昇している。 ○「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケートを学期末に実施し、次学期の改善に取り組んだ。 ○「よむYOMUワークシート」「読む・書くワークシート」を週1回実施した。	・学習支援ボランティアでプリントの丸付けに関わっているが、子ども達は良く頑張っている。気になったのは、同じプリントを何回もしている子どもがいることと、プリントが出る学年に偏りがあることである。 ・ワークシートの取組の継続が学力向上につながるのはい。 ・宿題に関しては横ばいで家庭学習の習慣は向上している。引き続き指標に近づぐように保護者を巻き込む工夫をしながら取り組んでほしい。	・昨年度に比べ高学年の達成率が上がっている。継続的な取り組みの成果である。スタディチェックや学力調査の基礎的な力になるので、今後も続けていく。 ・何度と同じプリントに取り組むことにより、学力が定着している児童もいるので、取り組む姿勢は評価していきたい。ただし、取組枚数に目がいくのではなく、子どもたちの学習意欲と学力向上につながる取組になるよう工夫を重ねていく。
	3 家庭学習の習慣化 ・家庭学習の手引きを作成し、学年×10+10分程度を目標にした家庭学習時間の確保	・児童アンケート「宿題をきちんとしていますか」:90%以上 ・保護者アンケート「お子さんは家庭学習の習慣がついていますか」:80%以上	●児童アンケート「宿題をきちんとしていますか」:88%、保護者アンケート「お子さんは家庭学習の習慣がついていますか」:74%となり、 昨年度よりは改善したものの、達成できなかった 。		・家庭学習は家庭の学習環境も大きく影響しているものの、学校として、懇談会・学校だより等を通して家庭学習の大切さを啓発してい。
ICTの活用	1 ICT機器活用力の向上 ・情報担当を中心に効果的な活用方法の研修	・ICTミニ研修会:年5回以上 ・ICT全体研修会:年1回以上	○職員のICT機器の日常的な活用スキルも上がってきているため、研修の場は設定しなかったが、個々に職員間で相談し合う場が多みられた。 ○全体研修会は1回実施した。各学年の児童の実態に合った実践を共有できた。		・教員も児童も抵抗なく端末が使えるようになっている。ICTサポーターさんの力も大きい。引き続きICTサポーターさんうまく活用し、学年に応じた使用方法を探り、全職員で共有していく。
	2 IICT機器を活用した授業の推進 ・日常的な活用の推進 ・ICTサポーターの活用	・ICTサポーターとの連携授業:毎学期1回以上 ・クロムブック活用アンケート「授業中にクロムブックをどの程度使っていますか」:週3回以上、80%以上(4年生以上)	○ICTサポーターとの連携授業を毎学期1回以上実施。教材作成面がかなり充実した。 ○クロムブック活用アンケート「授業中にクロムブックをどの程度使っていますか」の回答:昨年度より8%上がり、80%達成。(4年生以上)	・ICTの知識や技術は進むのが速い。新しい技術の取組をお願いしたい。 ・持ち帰らせる際は、ICTの具体的な活用方法を指示すると良い。ただ持つて帰るだけになる。	
長欠減少	1 人権尊重を基盤に据えた授業実践 ・児童の興味・関心・意欲を大切にして、考えを深め、表現し、適切に評価する授業	・人権アンケート「自分には良いところがあると思いますか」:90%以上 ・児童アンケート「先生は、あなたの話をよく聞いてくれますか」:90%以上	○児童アンケート「自分にはいいところがあると思いますか」:85% (昨年比+5P) ○児童アンケート「先生は、あなたの話をよく聞いてくれますか」: 95% (昨年比+2P)		・ほととルームの利用の仕方や、登校しづい背景等を勘案し、児童とのかかり方や関係性を深められるよう関係機関とも連携して取り組んでいきたい。
	2 全ての児童が居場所のある学校づくり ・やりぬめく、自制心、自己肯定感、社会性を身に付ける児童活動 ・いじめアンケートによる児童の実態把握と早期対応 ・SC、SSW、SLSの活用や関係機関との連携及びほととルームの効果的活用	・代表委員会による挨拶運動:月1回 集会活動:学期1回以上(生指部と連携) ・児童アンケート「学校に来るのは楽しいですか」:90%以上 ・不登校(傾向)児童の、児童生徒理解・支援シートの作成:100% ・長期欠席(30日以上)児童数R5年度以下	○代表委員による挨拶運動:週2回(月・水)、集会:も学期1回以上実施。 ○児童アンケート「学校に来るのは楽しいですか」:91% (昨年比+4%)、保護者アンケートも98%(昨年比+4P) ○児童生徒理解・支援シート:100%作成。 ○長期欠席(30日以上)児童数が、R5年度以下となっている。ほととルームを活用し登校支援につなげている。ほととルームは昨年度と比較すると利用児童は減少傾向にあるが、引き続き効果的に活用し登校支援につなげていきたい。 ●SCが大変効果的であったが、来校回数に限られているため、緊急でつなげたいところとつながらなかった。SCの必要な児童や保護者の ケースが多くなっているため、来校回数を増やす必要性を感じていく。	・多くの子ども達は自尊感情を持っており、アンケート結果に安心した。しかし、そうではない子どももいる現状に心が痛む。1日の大部分を過ごす学校で、先生に話をきいてもらえる環境づくりをお願いしたい。 ・SCの人数を増やす働きかけをした方が良い。今後の児童や保護者への対応が大変である。 ・今後「ほととルーム」に期待している。 ・ほととルーム利用の減少は良いが、新たな問題が発生しているのではないか。問題の共有化は必要である。	・児童へのアセスメントを校内で共通理解をはかれるよう、「子ども支援シート」を活用しながら、丁寧に引き継ぎを行っていく。またそれを活用した支援会議も定期的に開催していく。 ・SCの効果的な活用に努めるとともに、引き続きSCの配置拡充を市教委に要望していく。
地域連携	1 地域に「開かれた学校」の推進 ・地域人材・地域教材を活用したキャリア教育の推進 ・地域ボランティアの活用 ・地域・家庭と連携した防災、防犯、交通安全の取組	・スポーツ出前授業、未来応援人、キッズ輝けスクール等外部人材を活用した出前授業を各学年1回以上 ・ボランティアによる学習支援や見守り支援等:年200回以上 ・津波避難訓練、引き渡し訓練:年1回 ・交通安全教室:年1回	○観劇やスポーツ出前授業等、各学年1回以上の出前授業を活用することができた。 ○学習ボランティア(週平均4回)、登下校の見守り支援、読み聞かせや図書館整備(年200回以上)の支援をいただいている。 ○津波避難訓練、引渡し訓練を5/15に実施。たぐさんの地域ボランティア・PTAと警察とも連携して行った。 ○4年生の交通安全教室を11/7に実施。適度な気温の下、警察や教育委員会と連携して行うことができた。	・学校運営協議会では、校長先生、教頭先生から学校の現状をきくとんと報告して頂いているのは本当に良かった。子ども達が今、おかれている状態が良く分かった。先生方の努力ももう少し話して頂けたらと思う。 ・地域に住むものとして、一緒に子どもたちを見守っていくにはどのようにしたら良いのかを考えていきたい。	・来年度からは、観劇については校区にある白子高校の吹奏楽訪問に変え、地域とのつながりを大切にしていく。 ・今後も児童支援課、学習環境図書ボランティアさんの支援を受け、地域とともに子どもたちを育ててくことを地域と教職員とで共有し、子どもたちにも意識をさせていく。また今年度の児童集会で行ったボランティアさんへの感謝の場を来年度も続けていく。
	2 教育活動の公開・情報発信 ・学校行事と授業の公開 ・学校通信、学級通信、HPによる情報発信	・授業参観(学校公開デー):学期1回 ・学年、学校だより発行:年12号以上 ・ホームページ更新:毎日更新 ・保護者アンケート「学校通信やHP等で知りたいことが伝わっていますか」:90%以上	○授業参観:一学期(4/21、6/6)、二学期(11/1)の3回実施。三学期は、6年生を送る会に6年保護者の参観を予定 ○学年だよりを毎月発行。学校だよりは1月時点で12号まで作成。 ○ホームページは画像付きで、毎日学校の様子を紹介。 ○保護者アンケート「学校通信やHP等で知りたいことが伝わっていますか」:96% (昨年比+8P)。	・「学校だより」を配布していただけるのはとても良い。またHPを見ると学校の様子が良くわかり、身近に感じる。学校要覧の配布も助かった。 ・白子幼稚園の跡地をたんぼぼ学童や地域に開放し、地域づくり協議会の拠点として考えていくと良い。また、災害時でも使える。	・今後、必要に応じて、支援が必要な児童の支援会議やケース会議をもち、対応について協議していく。 ・今後児童支援課、学習環境図書ボランティアさんの支援を受け、地域とともに子どもたちを育ててくことを地域と教職員とで共有し、子どもたちにも意識をさせていく。また今年度の児童集会で行ったボランティアさんへの感謝の場を来年度も続けていく。
特別支援教育	1 個に応じた支援の充実 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な対応 ・個別の支援計画・個別の指導計画の整備と児童の情報共有 ・外国籍児童の支援体制の充実 ・外国籍児童巡回相談(支援)員の活用 ・関係機関(子ども家庭課、教育支援課等)や保護者と連携した取組の充実 ・通級指導教室の効果的な活用	・支援会議、ケース会議の実施:必要に応じて ・個別の支援計画・指導計画の充実:前期後期2回更新 ・独自の国際学校設置による取り出し:週16時間 ・学年だより等の翻訳文書を発行	○支援会議とケース会議を必要に応じて実施し、課題解決につなげることができた。引き続き、より効率的な支援会議やケース会議の在り方を検討していく必要がある。 ○個別の支援計画を年度初めに更新し、個別の指導計画を、1学期と2・3学期の2回作成することができた。 ○今年度は、ポルトガル語通訳の方が毎週来校したため、翻訳や児童支援、保護者への連絡などに丁寧な対応ができた。 ○特別支援コーディネーター3人が役割分担を行い、組織的な対応を行うことができた。 ○SCの少ない来校回数を効果的に活用し、児童や保護者への支援が充実した。引き続き、より効率的で効果的な取組を検討していきたい。 ●日本語指導が必要な児童の取り出し授業の中では、指導教員が指導を充実させるように工夫・改善に努めており、児童の日本語能力育成に大きく貢献し、当該児童も、取り出し授業を楽しみにしている。しかし、国際教室への取り出しを必要とする児童数が増加しており、教員不足から、取り出しの時間割を組むのが難しく、より丁寧な指導の実現が難しくなっている。	・教員の勤務時間を減らしてはならないご時世に、何をすることが定まっていな会議の開催は無くしてほしい。開催前に集まり、議論するのが情報共有で済ませるの判断できる仕組みがあれば良いのではないかと。 ・限られた資源(人材・時間・教室等)の中で、個々の対応が求められ、さらにデリケートな要因もあり、一段と大変かと思うが、頑張ってほしい。	・今後、必要に応じて、支援が必要な児童の支援会議やケース会議をもち、対応について協議していく。 ・各児童の日本語能力別に、取り出し授業を組むことが出来るよう、各々の日本語能力のレベル等について、次年度への引き継ぎをしっかりと行う。それをもとに、取り出し授業を各児童にとってより良いものとするよう、次年度の時間割を組んでいく。また、指導員の配置拡充についても、市教委に要望していく。
	2 特別支援教育の視点にたった教育活動の充実 ・集中できる落ち着いた学習環境づくり ・見通しを持たせる授業計画	・ユニバーサルデザインの授業づくり研修会:年1回以上 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師の振り返りアンケートを学期末1回(二部会で連携)	○特別支援教育の視点を入れた、とびうお学級の研究授業を実施することができた。 ○「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師の振り返りアンケートでは、「刺激のない落ち着いた学習環境づくりや見通しを持たせる授業計画に取り組む」の達成率93%であった。	・出身国の多様化も考えていく必要がある。同じ言語圏の子どもを集めて学習すれば、日本語能力の育成につながるのではないかと。 ・授業の取り出しでは、何を目的にするのかはききさせる必要がある。	・今後、特別支援教育に関する研修会を1回以上もち、研修会で学んだことを活かして、特別支援教育の視点を入れた授業づくりに取り組む。
生徒指導	1 落ち着いた生活態度 ・重点目標(挨拶・返事、廊下階段歩行、チャイム、トイレの使い方、校内の整頓、無言清掃)の徹底 ・学びに向かえる学習環境、学習規律の確立	・重点目標の振り返り:毎月の二委員会時 ・児童アンケート「進んであいさつをしていますか」90%以上 ・児童アンケート「学校の約束や決まりを守ることができましたか」90%以上 ・児童アンケート「友達にやさしくできましたか」90%以上 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケート:学期末1回(二部会で連携)	○振り返り活動を重点的に取り組むことができた。 ●児童アンケート「進んであいさつをしていますか」:85%(昨年比+3P)であり、保護者アンケートは78%(昨年比+1P)であった。引き続き、学級指導、集会での呼びかけ等を強化、継続していきたい。 ●児童アンケート「学校の約束や決まりを守ることができましたか」:89%であった。引き続き、児童の規範意識を高め、目標を達成できるよう粘り強く取り組んでいきたい。 ○児童アンケート「友達にやさしくできましたか」:95%であった。 ○「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケートを学期末に実施し、次学期への意欲と改善に繋げた。	・学校では「地域の人にあいさつをしましょう」と指導をしている。校内だけでなく、地域でのあいさつが広がることを期待したい。そのためには、児童には継続的に挨拶の指導を実施していく。 ・校内では、廊下歩きについての課題があり、引き続き、校内のきまりを守る指導が徹底されるよう、全職員で指導していく。	
	2 対話を重視し、児童の良さや可能性を認め、共感しながら接する組織的な指導 ・各教職員が、常に自身の取組を振り返る意識を高める	・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケート:学期末1回(二部会で連携)	○「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケートを学期末に実施し、次学期への意欲と改善に繋げた。 ○いじめアンケートを年3回実施し、個別面談を実施した。結果は全職員で共有し、早期発見早期対応に努めた。また、アンケート後も児童の様子を継続的に観察した。 ○保護者アンケート「白子小学校は、お子さんのことを気軽に相談できる学校ですか」:86%(昨年比+4P)であった。 ○週1回以上、児童の問題行動や課題について、全職員で情報共有し、問題行動の早期解決、未然防止に努めた。	・いつもアンケートで挨拶の問題が出てくるが、大人にも問題があると思う。子どもだけにそれを求めるのは少し違うのではないかと。 ・目標達成はできなかったが、前年度より下回っていない。先生たちはよくやってくれている。引き続き、挨拶や約束・決まりを守る指導をお願いしたい。	・いじめアンケートの実施については、システム化され、その後の観察指導も継続的に行われる。引き続き、継続的な児童観察、児童の情報共有を徹底したい。
	3 問題行動の未然防止 ・アンケートや対話による実態把握 ・電話、家庭訪問、懇談会、PTAとの話し合い等による保護者との連携	・いじめアンケート年3回 ・保護者アンケート「白子小学校は、お子さんのことを気軽に相談できる学校ですか」:85%以上 ・週1回以上の学校内での情報共有	○週1回以上、児童の問題行動や課題について、全職員で情報共有し、問題行動の早期解決、未然防止に努めた。		
組織的な学校運営と	1 全教職員による学校運営へ参画 ・人事評価制度を活用した面談 ・二部会等の活性化 ・教職員間の対話を重視した風通しのよい職場づくり	・面談:年3回以上 ・二部会長等との意見交換、企画委員会の充実 ・コンプライアンス宣言の設定:全教職員100%	○人事評価制度を活用した面談を、1月末で2回実施予定 ○毎月企画委員会を開き、学校運営の方向性や課題について協議を行った。 ○職員会議や打合わせでコンプライアンスについて周知、チェックリストを行うことで、全職員が意識することができ、服務規律の確保を徹底することができた。	・ノー残業ディを設定するなど、より時間外労働削減に取り組んで欲しい。 ・先生方は厳しく成果と課題を振り返っているが、先生方は大変よくやってくれている。しかし、先生方の勤務時間を考えると、家での時間や睡眠時間まで削られているのではないかと。 ・副担任制度があれば、各先生方の負担が減る。チームを組み、児童への指導が効果的になる。教員が増えるよう要望して欲しい。	・コンプライアンスを意識し、風通しの良い職場づくりを全職員が認識できるようにしたい。 ・情報共有シート、C4thの掲示板を積極的に活用する。 ・部長、担当を中心とした効率的・効果的な組織づくりを推進する。
	2 時間外労働の削減 ・職員会議提案資料の事前確認と提案の簡潔化 ・クロムブック校内掲示板とホワイトボード連絡黒板の確認と共通取組の遵守 ・定時退校日の設定と退勤システムによる勤務時間の確認	・一人当たりの月平均時間外労働:30時間以下 ・放課後開催の会議を60分以内にす:70%以上 ・定時退校日を月2回設定	○12月来までの一人当たりの平均労働時間は26.6時間(昨年比△1.1時間)、月45時間以上の延べ人数:24人(昨年比+1人)。 ○放課後開催の60分以内の会議:75% ○定時退校日月2回実施し、ほとんどの職員が月2回定時退校をすることができている。		・スクールサポートスタッフの利用や教材の共有化を行い、教材研究等にかける時間確保を工夫する。 ・授業中の子どもへの支援は、支援員、介動員、サポートに入る教員と連携し、情報共有を大切にする。